

耳をすまして 声をうけつぐ

「民話声の図書室」の11年

2024
2 / 1^{THU} — 29^{THU}

休館日 2 / 22^{THU}

9:00 — 22:00

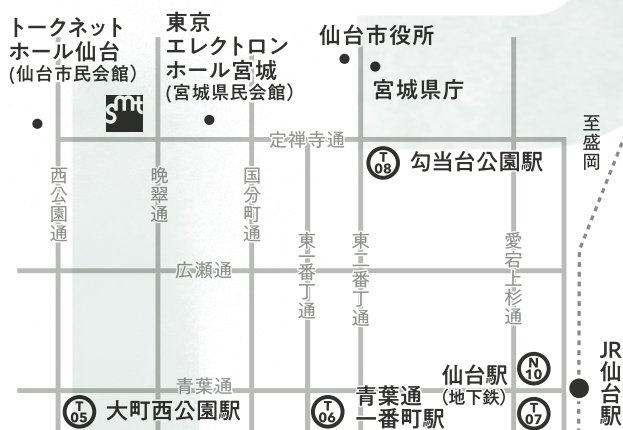
入場
無料

※最終日は17:00まで

せんだいメディアテーク 7Fラウンジ

主催:みやぎ民話の会「民話声の図書室」プロジェクトチーム
せんだいメディアテーク

助成:一般財団法人 地域創造



12年前の大地震大津波のあと、

その日の記憶を語る声をうけつぐ場から、

「民話声の図書室」が生まれました。

その母体である「みやぎ民話の会」はそれまで、

山や里、浜辺を歩き、

そこで語られる話に耳をすまして、

生きた語りの声を多くのみなさんに手わたしていこうと、

記録し続けてきました。

本展では、はからずも出会った

みやぎ民話の会とメディアテークが手をたずさえて

「民話声の図書室」として制作してきた

民話のDVDやCD、これまでの展示、

「民話ゆうわ座」の記録を紹介し、

11年のあゆみを見ていただきます。

<関連イベント>

考えるテーブル 丸森の民話を聞く 語る

ゲスト:鈴木悦郎(語り手)

2月12日(月・休)14:00~15:30 7F スタジオa <参加無料>

ほんとうにあった不思議な話がいきづく宮城県伊具郡丸森町。
鈴木悦郎さんは、その里で生まれ、暮らしの中で語られる話を聞いて育ちました。
神楽を舞い、村の歴史や暮らしの面白さを味わうなかで、
やがて聞き覚えた話をみずから語るようになりました。
そんな悦郎さんをお招きして、丸森の里の暮らしとその中で生きてきた話を、
じっくりとお聞きます。



すずき えつろう
鈴木悦郎

1947年宮城県伊具郡丸森町大内に生まれる。幼い頃は本家の「おばやん」(鈴木智恵さん・1905年生)から昔話を聞くとともに、祖父と近所の古老が炉端で語り合う昔話を聞いて育つ。近年は社会教育主事として町の文化行政にたずさわるかたわら、町内の古老を訪ねては年中行事などの伝承を聞き歩く。地域に根ざした伝説や新しい時代に生まれた現代民話なども語り、豊富な知識を生かして町の案内役としても活躍している。

考えるテーブル 小さなゆうわ座 一声をきく みる はなす

2月23日(金・祝)14:00~16:00 7F スタジオa <参加無料>

「民話声の図書室」では、民話語りのDVD・CDを、毎年一つ二つと作ってきました。
そのたくさんの方の記録の中から、いくつかの語りの声を聞き、
語り手と語りの場の姿を見て、感じ考えたことを、
参加されるみなさんと自由に楽しく話しあいたいと思います。

問い合わせ先

せんだいメディアテーク 企画・活動支援室

980-0821 仙台市青葉区春日町2-1 TEL 022-713-4483 FAX 022-713-4482 E-mail office@smt.city.sendai.jp web https://www.smt.jp/projects/minwa/

この紙はリサイクルできます